謝辞

本論文を執筆するにあたって、多くの方々にご教示ご支援を賜った。

指導教官である湯沢質幸先生には学問的な面においては貴重なご指摘やご助言を、精神的な面においてはいつも温かい励ましの言葉をいただき、筆者の長年の留学生活を通して大きな支えであった。心より厚く御礼を申し上げる。

高田誠先生には日頃から言語学者としての姿勢や一般言語学的な知識を教わった。また、本論文の構想の段階から多くのご指導をいただいている。深く感謝の意を表したい。

そして、竹沢幸一先生、鷲尾龍一先生には日頃から筆者の未熟な議論に付き合っていただくなど、本論文を完成させるまで数多くの貴重なご指摘ご助言をいただいた。また、杉本武先生には本論文の審査にあたり、詳細なご指摘ご助言をいただいた。心より厚く御礼を申し上げる。

なお、大学時代から温かく見守ってくださった韓国の同徳女子大学校の李徳奉先生にも心より厚く御礼を申し上げる。

併せて、筑波大学大学院応用言語学研究室の院生の諸氏、現代語・現代文化学系の準研究員である宮田明子氏には日頃から議論に付き合っていただくなどして、研究への刺激を受けることができた。感謝の意を表したい。

最後に、経済的な援助で筆者の留学生活を支えてくださった文部科学省にはここに記して感謝の意を表したい。

2003 年 1 月